

**学校法人アイデア熊本アジア学園
アイデアITカレッジ阿蘇**

**令和6年6月26日
学校関係者評価結果**



評価委員・事務局名簿

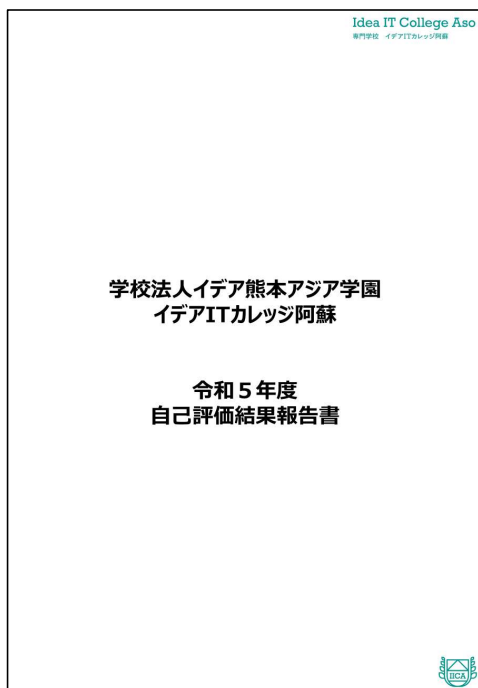
◆学校関係者評価会議概要

日時：6月26日(水) 18時～19時

場所：アイデアITカレッジ阿蘇

形態：オンライン（Zoom）

進め方：令和5年度の自己評価結果を事前配布し、
当日は課題（C評価）を中心にご意見を頂いた。



■学校法人アイデア熊本アジア学園 学校関係者評価委員名簿

2024. 6. 30.

役割	氏名	所属・職名	外部人材
関連業界等関係者	乗口 雅充	株式会社セキュアスカイ・テクノロジー 会長	○
関連業界等関係者	内尾 公生	株式会社HTSライズ 熊本営業所長	○
教育関係者	古川 滋章	福岡城西学園 理事長	○
教育関係者	宮崎 真由美	専門学校 講師兼スタヂオ 蚕 代表	○
保護者代表	成田 紀恵	卒業生の保護者代表	○
地域住民の代表者	井手 美佐子	南阿蘇村婦人会	○

役割	氏名	所属・職名
事務局	井手 修身	学校長
	鈴木 俊良	副校長
	菅 彰彦	事務長
	家守 里佳	広報
	堀口 奈美	業務推進

当日資料：令和5年度の自己評価結果内容（事務局からの重点説明部分をラインマーク）

1. 教育理念・目標

◆ミッション

IICAは、熊本・阿蘇を拠点に、IT人材育成の側面から持続可能な地域社会の実現に貢献する

◆あるべき学校の姿

企業・地域・社会と共に変化・挑戦することを許容していく、**進化し続ける、永遠に完成しない学校**

◆建学の理念

自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えて、自分と世界を幸せにする

◆教育の目標

ITの力で、地域の未来を創る人材

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	学校の理念・目標・育人人材像は定められているか → https://iica.jp/ にて公開	A
2	学校における職業教育の特色を設定しているか → https://iica.jp/career/ にて公開	A
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか → https://iica.jp/features/ にて公開	A
4	学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか →ホームページや各種メディアでの発信に加え、オープンキャンパスで説明	A
5	教育目標、育人人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか →注文式教育企業の代表がカリキュラム検討会に参画	A
6	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが学生・保護者等に周知されているか →アドミッションポリシーのみ https://iica.jp/info/ にて公開	C

◆更なる改善策の実践内容

- ①現方針に加え、「学生の資質を伸ばす環境づくり」を基本的な考え方に加える
・「ダイバーシティ&インクルージョン」を「国際性」の定義の一つとして追加し、実践を開始。
国内外学生混在チームによる授業運営は学生面談でも高評価を得ている。
- ②「注文式教育」の在り方を継続的に進化させる
・学びを社会に還元し、ビジネスを通じた持続可能な地域づくりに貢献するしくみとして、
専門学校校発のローカルベンチャー「(株)アクワイ」を始動した。



2. 教育活動

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか →「IICA式授業デザイン」を策定し講師説明を実施しているが、未公開	B
2	教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか →シラバスに記載	A
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか→カリキュラム表として整理	A
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発がされているか →注文式教育企業代表がカリキュラム検討会に参画	A
5	各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか →カリキュラム検討で育人人材-授業関連図で方向づけを実施	A
6	実践的な職業教育（インターシップ等）が体系的に位置づけられているか →キャリアセンター講師が行う授業が、全授業の10%強を構成している	A
7	授業の評価体制はあるか →学生アンケート結果を講師にフィードバックしているが、体系的な評価は未実施	B
8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定は明確な基準に則り運営されているか →成績・単位基準はシラバスに明記、卒業判定は明確だが進級は柔軟に対応	B
9	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保 →講師経験者と企業講師で最適化を目指すが、特定講師偏重の課題あり	B
10	先端的な知識・技能研修や教員の指導力向上のための取組が行われているか →先端知識を持つ企業講師を招いているが、研修や指導力向上取組は未実施	C
11	職員の能力開発のための研修等が行われているか →研修参加は随時可能だが、計画的な職員研修は実施できていない	C

◆更なる改善策の実践内容

- ①教える質の向上（講師）
・宿泊形式の講師懇談会を通じた講師間の情報・ノウハウ交流の場づくりを開始した。
- ②学ぶ質の向上（学生）
・1年次の前半（第一四半期）に学科共通の基礎科目を集中的に学ぶ事により、それ以降の専門科目理解力が高まるようにカリキュラムを設計した。
・単一となる授業にはTAが同席し、課題発生時は講師・職員にフィードバックするようにした。
・文科省のDX人材養成プログラムを通じ、DX関連科目の質向上を他校展開レベルに加速した。
- ③企業との関係性向上
・キャリアセンターが窓口となり企業との関係づくりを推進。企業説明会の実施等を通じ、学生と企業のマッチングレベルの向上を図った。



3. 学校運営

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか →年度初めに運営関係者で共有	A
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか →重点方針への投資計画、予算管理運営などが途上	B
3	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、有効に機能しているか →運営組織での重点課題を責任者会議で意思決定するサイクルを週次で運営	A
4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか → https://iica.jp/information_iica/ のほか、各種SNS、チラシ等にて発信	A
5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか →開校時からクラウドサービスを導入し、授業や成績管理、校務等に活用	A

◆更なる改善策の実践内容

- ①経営管理
・円滑な事業運営：月ごとの収支を当月内に関係者へ共有する運営を開始した。
・令和5年度で完成年度を迎え、学校運営は一定のサイクルを構築できたが、中期視点での重点方針への事業（投資）計画化は途上である。
・大学編入、留学制度：留学に繋がる授業科目を新設、大学編入調整は継続中。
・更なるIT活用：次年度導入に向け、成績・出席率確認アプリの検討を開始した。
- ②ブランド・広報・マーケティング
・学生募集に繋がる情報発信：テレビ局への働き掛けが全国・地元での放送に繋がったが、計画的なメディア活用には至っていない。
・企業関係者との関係づくり：11月の成果発表会をキャリアセンター主催で実施することにより、企業関係者との関係を深める実績づくりとなった。
・学校関係者との関係づくり：学校の取り組みを紹介するニュースレターの月次配信を開始した。
- ③教育推進
・カリキュラム改善の円滑な運営：プロジェクト形式でのカリキュラム検討プロセスを立上げ
・キャリアサポートの充実：キャリアセンター運営の定着化により1期生就職率96%を達成
・教育の質向上を目的とした、講師懇談会の運営を開始した
- ④業務推進
・安心・安全・快適な就学環境：学生保険の充実、買い物・移動手段サポートの充実
・円滑な事業・授業運営：講師契約書の充実化、Teaching Assistant運営を開始した。
・業務効率化：奨学金関連業務のマニュアル化を推進



当日資料：令和5年度の自己評価結果内容（事務局からの重点説明部分をラインマーク）

4. 学生の受入募集・学修成果

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	学生・生徒募集活動は、適正かつ効果的に行われているか →多様なチャネルでの募集活動により県内の認知度は上がってきているが、高校生・留学生の定員入学者数には至っておらず、改善の余地がある。	C
2	学生・生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか →募集活動に関する情報発信内容は事前に確認プロセスを経て発信されている	A
3	校納金は妥当なものとなっているか →評議を経て募集要項化され https://iica.jp/info/ で公開されている	A
4	就職率の向上が図られているか →キャリア講師によるキャリアセンター運営を通じ、1期生の就職率96%を達成	A
5	退学率の低減が図られているか →気軽な学生相談窓口「ちょっとIICA」や、年3回の面談、必要都度のフォローを実施しているが、退学率8%の状況を改善するためには更なる対応策が必要	C
6	在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか →授業や個別ヒアリング等で把握、外部コンテストで優秀な成績を収めた学生を表彰するなどしている	A
7	アドミッションポリシーに即した入学選定が行われているか →完成年度を経て96%の就職率ではあるものの、高退学率の課題に対応するためには入学選定の改善も必要であると認識している。	C

◆更なる改善策の実践内容

①広報・学生募集機能強化

- ・広報マーケティング担当の職員を1名増員し、県外を含む高校訪問エリアを拡大した。
- ・文科省DXプロジェクトでの成果物、授業紹介動画なども活用して学校パンフレットやWebサイトを刷新し、訴求力を強化した。

②学生の就職意識強化に繋がる企業とのコミュニケーション強化

- ・キャリアセンター主催による成果発表会を通じた、学修成果の企業への訴求を実施
- ・主要企業との定期的な活動報告・ヒアリング、業界コミュニティへの参加は継続検討中

③就職率の維持・向上に繋がる語学力の強化

- ・特に留学生については入学希望者の語学力を適切に判断する取組みを強化する。
- ・日本人学生を対象に「海外研修」授業を新設し留学促進を開始。英検やTOEIC資格獲得の検討も継続する。

④退学率の低減

- ・気軽な学生相談窓口「ちょっとIICA」や、年3回の面談、必要都度のフォローに加えて、スクールカウンセラーの設置等を検討する。



5. 学生支援

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか →注文式教育企業とも連携したキャリアセンターを設置	A
2	学生相談体制は整備されているか →気軽な学生相談窓口「ちょっとIICA」や、年2回の面談、必要都度のフォローを実施しているが、スクールカウンセラー設置には至っていない	B
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか →独自の授業料減免制度のほか奨学金制度については個別の状況に合わせた説明を行うなど、細かなサポートを実施	A
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか →運営事務局が主体となり健康診断やそのフォローを実施	A
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか →注文式教育企業を始めとして多様なフィールドワーク先の協力体制のほか、専門知識を活かせるコンテストを積極的に紹介し、受賞学生を表彰している	A
6	学生の生活環境への支援は行われているか →自治体や地元事業者とも連携し、住居や交通手段の支援、買い物支援等を実施している	A
7	保護者と適切に連携しているか →文化祭ほかのイベントでの交流のほか、必要時には三者面談を実施している	A
8	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか →注文式教育企業からのニーズに応える教育環境を整備しているほか、社会人科を設置して卒業後の継続した学びの仕組みづくりを行っている	A



6. 財務

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか →ほぼ事業計画通りに運営できているが、在校生数増加による学費収入増や企業寄付金等の収入確保等の中期的に安定した財務基盤づくりは整備途上	C
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか →ほぼ計画通りに運営できている	A
3	財務について会計監査が適正に行われているか → https://iica.jp/information_iica/ にて監査報告を公開	A
4	財務情報公開の体制整備はできているか → https://iica.jp/information_iica/ にて財務状況を公開	A

◆更なる改善策の実践内容

- ①中期的に安定した財務基盤づくり
・中期的に安定した財務基盤づくりのための企業寄付金や資金調達の新たな仕組みを構築する。

7. 法令順守

◆自己評価（現状）

No.	評価項目	現状評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか →重要事項の意思決定については、校長・副校長・事務長からなる責任者会議で法令順守に則った意思決定を行っている	A
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか →個人情報を含む学校運営に関わる情報はクラウドでの管理を徹底し、副校長・事務長が閲覧権限管理者を担っている。	A
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか →校長以下全職員による週次での課題共有、解決策検討を行っているが、自己評価をベースにした改善PDCAサイクルづくりは発展途上	B
4	自己評価を公開しているか → https://iica.jp/information_iica/ にて公開	A



評価委員からの主なご意見と、具体的なアクション案

ご意見 委員	全般	理念	教育	運営	学生募集	学生支援
乗口 (企業)	・自ら厳しい目の評価となっているが、実際はもっと良い。皆さん良くやられている。	－	－	・学生が増えてきたときに今の陣容で対応できるかは不安要因。	・リソースが限られている中、日本人学生の募集先は熊本に集中してはどうか。	・学生が増えてきたときにサポートを減らさない事が今後の課題。
内尾 (企業)	－	－	・留学生に比べ日本人学生の社会経験が弱い。長期インターンなど企業としても協力したい。	－	・就職実績をもっと訴求すべき。卒業生やその採用企業にも協力を仰ぎ、楽しく働いている姿を見せるべき。受入れた企業として協力は惜しまない。	－
古川 (学校)	－	・理念とそれを実践されている教育の中身はとても良いので、世の中へ認知を広める部分を強化すべき。	－	－	・実践されている事が高校の先生や保護者に伝わり切れていない。卒業生や採用企業の声を含めてしっかり伝える広報力が必要。 ・学生は日本人と留学生で半分ずつ、日本人の半分为熊本	・カウンセラーは常駐でなければならない。我校では全職員がカウンセリング資格をとり、自信をもって相談対応できるようになった。
宮崎 (学校)	－	・IICAで実際に教えている経験を通じ、学校のコンセプトや想い、カリキュラム、職員の活動は素晴らしいと感じている。もっと多くの方に知って頂きたい。	－	－	・新しいものから距離をとる高校の先生は少なくない。夏季休暇などを利用して、県外にもアプローチを広げてはどうか。 ・IICAを応援してくれている地元の人たちを巻き込んで、発信の輪を広げてはどうか。	・スクールカウンセラーより常勤者のレベルをあげていく事が良いと思う。学生の変化を察知した早めのアクションがキー。 マンパワー的な限界は見定める必要あり。
成田 (保護者)	－	－	・日本人学生の親として、留学生から学ぶ事が多いと感じる。 ・日本人学生の意識を駆り立てるような活動を期待する。	－	－	・学生には笑顔で卒業して欲しい。子供は海外の若者と触れ合う機会から沢山の事を学び、意識も変わった。

**ご意見を受けての
具体的なアクション案**
→次年度自己評価で結果フォロー



今年度より1か月程度の企業研修やインターンの実施。

学生増に対応できる学校運営、学生サポート、カウンセリングの体制、しくみ検討。

今年度の学生募集に卒業生や企業、地元住民を巻き込む。

学生増に対応できる、学校運営、学生サポート、カウンセリングの体制、しくみを検討する。